

『西国立志編』における漢語の問題

ー左ルビ付漢語を中心にー

尹錫南*

(e-mail: ysnw@konyang.ac.kr)

目次

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 4. 英華字典と左ルビ付漢語の関連性 |
| 2. 先行研究 | 5. 『日本国語大辞典』と左ルビ付漢語 |
| 3. 調査概要と漢籍の典拠の有無 | 6. まとめ |
| 3.1. 調査概要 | |
| 3.2. 漢籍の典拠の有無 | |
-

1. はじめに

明治初期は、西欧からの影響がはなはだしい時期であり、近代思想、文物、文化などを紹介するために数多くの啓蒙書や翻訳書などが出された時期でもある。その翻訳の態度は、数多くの漢字・漢語でもって訳され、その中で新しい漢語がつくられるようになった。

明治初期の翻訳書の一つである『西国立志編（1870 - 71）』は、原著、Samuel Smilesの『SELF-HELP』（1867版、初版1859）を翻訳したものであるといわれており、明治元年4月、中村正直がロンドンを去るとき、友人のフリーランドが贈ってくれた“SELF-HELP”を船中で読み、感激して約10カ月を費やして明治3

* 建陽大学校 副教授 日本語学

年10月末に翻訳を完了したのである¹⁾といわれている。

『西国立志編』に記されている漢語の中には、ルビなしの漢語、右ルビ付漢語、左ルビ漢語語、両ルビ付漢語があり、その中で、今回は、本文の漢語に左側ルビがついている漢語を研究対象とする。

本稿は、当時の翻訳書の一つであり、明治の日本人に多大な影響を与えたと知られている『西国立志編』の字音読みされる漢語を調査対象とし、左ルビ付漢語における中国古典の典拠の有無について概略的な調査を行い、漢籍の典拠が見られない漢語、日本製漢語である可能性が高い漢語、中国の洋学書における訳語である可能性の高い漢語を抽出する。これらの漢語を対象に中国の英華辞典や日本の英和辞典との関連性、及び日本語における現代語への成立過程を考察する。

2. 先行研究

『西国立志編』という翻訳書を対象に行われた研究は、明治初期の訳語を知る上で、貴重な資料としていち早くから行われており、ここでは、概略の紹介に留めておく。

まず、『西国立志編』のふりがなの問題については大野・水谷(1952)、西尾(1968)、小林(1982)の論考が代表的である。次に、岡島昭浩ら(2000)は、左傍訓を有する漢字語彙とその索引を調査しており、鈴木・松本(2001~2012)は、長年をかけて『西国立志編』の語彙索引稿の刊行は、後学研究者の研究に、非常に役立つものとして評価される。

また、木村(1999、2001、2003、2004)の諸研究では、“良心、記号、発見、発明”などの語別的な研究の成果をあげている。

なお、拙稿(2003)では、両ルビ付漢語を中心に、漢籍の典拠の有無、英華字典との関連性について語別調査を行った。黄(2007、2008、2009)では、『西国立志編』における反転語や外国地名表記についての論考がある。

本稿においては、これらの研究を踏まえながら論を展開していくことにする。

1) 佐藤喜代治編 『国語学研究事典』明治書院、P846

3. 調査概要と漢籍における典拠の有無

3.1. 調査概要

ここで扱う底本として鈴木丹士郎架蔵の全八冊からなる和装本と鈴木丹士郎(2001)の「『西国立志編』 解題・第一編本文及び語彙索引稿」を利用して分析を行った。本考察における表の作成もこの書を参考に再構成を行う。「『西国立志編』第一編の左ルビ付漢語には、“化(左ナヲス)セシムル、喫(左クラフ)セシメ、供(左ソナヘル)セシムル、權(左イキホヒ)、稱(左ナヅゲ)シテ、斷(左キメテ)ジテ、特(左タダ)ニ、癖(左クセ)、饅(左コテ)、擁(左モチ)シ”など、字音読みの一文字からなる漢語があるが、本稿では、調査対象外として、漢字二字の結合による二字漢語を対象にする。また、“按察司(左ジョツチ)、衣糧袋(左ナップサツク)、印書匠(左ハンスリシ)、極卑微(左ゴクイヤシキ)、言行録(左イチダイキ)、採石礦(左イシヲキリダストコロ)、裁縫匠(左シタテヤ)”などの三字漢語、“開化文明(左ヒラケー)、円光返照(左カエリウツルヒカリ)、巻帙浩瀚(左タイブナルモノ)、觀感興起(左ミテカンシンシテフンパツサセル)、亨通利達(左シュツセリウン)、結菓成就(デキアガリ)”などの四字漢語も対象にする。三字漢語、四字漢語の語構造の結合形式を野村(1976)の分類²⁾によって分析すると、三字漢語は、I型{(○+○)+○}の漢語が大多数であり、II型{(○+(○+○))}の漢語は“極卑微(左ゴクイヤシキ)”のみであった。なお、四字漢語は、I型:{(○+○)+(○+○)}の漢語が大多数を占めている。これら三字漢語、四字漢語の場合は、中国漢籍の典拠を知る上では、二字漢語を一つの形態素(語基)と扱い、その典拠の有無を分析することが一般的である。しかし、本考察の研究目的の一つでもある中国の英華辞典と英和辞典との訳語としての関連性の分析を行う際には、意味上、切らずに分析を行うことにする。

3.2. 漢籍における典拠の有無

上記で述べたように左ルビ付き漢語の漢籍の典拠の有無を知るために、まず、

2)野村雅昭(1976)「現代漢語の語構成について」(『情報管理18、No11』)には、三字漢語の構造は、二種類のパターンに大別することができる。I型(U+u):{(○+○)+○} II型(u+U):{(○+(○+○))}、四字漢語の結合パターンのうち、出現率の高いものは、I型(U+U):{(○+○)+(○+○)}、II型{(U+u)+u}:{(○+○)+○}+○、II₂型{(u+U)+u}:{○+(○+○)}+○、III₁型{u+(U+u)}:○+{(○+○)+○} III₂型{u+(u+U)}:○+{○+(○+○)}のように分類している。p 888

下記に取り上げる資料の調査を行い、その漢籍の典拠の有無を確かめることにする。

まず、中国古典、漢訳仏典を源流とする語であるかどうかを検討するために次の文献を用いた。

- (1) 『大漢和辞典』(諸橋徹次著、大修館、昭43)(以下『大漢和』と称す)、
『漢語大詞典』(漢語大詞典出版社、1992)

に中国の古典の用例があるかどうかを検討し、典拠の有無を検証する。

まず、左ルビ付漢語が『大漢和』と『漢語大詞典』にその項目があり、古代中国の漢籍・漢訳仏典の用例の認められる場合は、中国製の漢語として認定するが、『大漢和』と『漢語大詞典』に項目はあるものの、漢籍・漢訳仏典の用例が見られない語や、日本の用例がある語、項目としてみられない語についても既存の研究資料を中心にさらに調査を進める。

(2) 中国の『英華辞典』・漢訳洋学書、日本の蘭学書、英和辞典類、『日本国語大辞典第二版』(日本大辞典刊行会編、小学館、2001)(以下、『日国2』と称す)などの調査を行い、初出の時期を比較して中国製漢語なのか、日本製漢語なのか、を検証する。具体的な資料として中国の英華辞典として、『英華字典』(ロブシャイド、1866~1869)や、近代の中国の初期漢訳洋学書である『職方外紀』(1623)、『西方要紀』(1669)、『西学凡』、『地輿図説』(1672)、『六合叢談』(1857)や後期漢訳洋学書『聯邦志略』(1861)、『万国公法』(1864)、『智環啓蒙塾課初歩』(1864)³⁾などを調査する。その他、日中関連論文資料を調査する⁴⁾。さらに日本の資料としては、蘭学者の書簡文⁵⁾、『解体新書』(1774)などの蘭学書⁶⁾、『英和对訳袖珍辞書』(1862)、『和英語林集成英和部』(1867)、、『和英語林集成英和部』(1867)などの対訳辞書類、惣郷正明・飛田良文著(1986)『明治

3) 佐藤亨(1983)『近世語彙の研究』(桜楓社)、(1986)『幕末・明治初期語彙の研究』(桜楓社)を参考にした。

4) 沈国威(1994)『近代日中語彙交流史』(笠間書院)、中條修・李大清(1993)「近代新漢語における中日語彙の交流」(『静岡大学教育学研究報告』24号)

5) 佐藤喜代治著(1971)『国語語彙の歴史的研究』(明治書院)を参照した。

6) 佐藤亨(1983)『近世語彙の研究』桜楓社、(1980)『近世語彙の歴史的研究』桜楓社、(1986)『幕末・明治初期語彙の研究』桜楓社、湯浅茂雄(1985)「蘭学資料の語彙 - 『舎密開宗』の用語を中心として」(『講座日本語の語彙第5巻近世の語彙』明治書院)などを参照した。

のことば』(東京堂出版)、森岡健二編著(1969)の『近代語の成立—明治期語彙編』(明治書院)、その他、鈴木英夫(1978)「幕末明治期における新漢語の造語法—『経国美談』を中心として—」、鈴木修次(1983)「嚴復の訳語と日本の「新漢語」」などの明治初期の資料を中心とした諸論文⁷⁾の調査を行い、その意味や用例の有無の確認の的確さに努めた。

以上の諸資料から左ルビ付漢語の漢籍の典拠の有無を調べた結果をここに示す。

(1) 漢籍の典拠の認められる左ルビ付二字漢語

本章では、紙面上、一部の例をあげ、すべての語は、<付録>として示す。

壓抑(左オシツケル)、安佚(左ラクヲスル)、安寧(左アンラク)、委曲(左コトコマカ)運會(左ヨキバアヒ)、銳意(左イツシヨウケンメイ)、永續(左エイゾク)、贏得(左カチウル)、役使(左ツカハレル)、閱歴(左コトヲヘル)、懊悵(左クヤミ)、圻者(左サクハン)、圻人(左サクハン)、懷惡(左ワロクナリタ)、街衢(左マチチマタ)、會集(左アツマリ)、價銀(左アタヒ)、學習(左ケイコ)

これに属する漢語の中には、“査究(左センサク)”などは、中国清朝代の『福惠全書』(1699)の用例が載っており、“自主(左ヒトリダチ)”などの語は、中国洋学書において訳語とされ、日本に移入された⁸⁾との指摘もあり、漢籍の典拠がある

7)高野繁男(1979)「明治初期の翻訳漢語—「論理学」(『百科全書』所収)による」『人文学研究所報』11号、進藤咲子(1991)「近代語彙の一考察—『学門ノスヽメ』の語彙の性格」『東京女子大学比較文化研究所紀要』52号、高野繁男(1980)「大槻文彦・訳「言語編」の訳語—明治初期の翻訳漢語」『人文学研究所報』14号、高野繁男(1978)「明治初期の翻訳漢語—「修辞及華文」による」『語学研究』、松井利彦(1984)「明治初期の法令用語と造語法」『広島女子大学文学部紀要』、佐藤亨(1989)「明治初期の国語語彙資料よりみたる『日本国語大辞典』」『新潟大学国語国文学会誌』、国立国語研究所(1970)「明治時代語の研究—明治初期における漢語の研究」『国立国語研究所年報』、国立国語研究所(1971)「明治時代語の研究—明治初期における漢語の研究」『国立国語研究所』、松井利彦(1983)「近代日本漢語と漢訳書の漢語」『広島女子大学文学部紀要』18号、栗島紀子(1966)「訳語の研究—西周を中心に」『日本文学』27号、鈴木英夫(1980)「新漢語の造出と享受—明治前期の新聞を資料として」『国語と国文学』東京大学国語国文学会、酒井純子(1991)「福沢諭吉の四字漢語について」『信州大学国語教育学会』、安倍百合子(1970)「天路歷程」における訳語研究『日本文学』の論文資料を分析した。

8)佐藤亨(1986)『幕末・明治初期語彙の研究』桜楓社 p.324

といっても中国の明清朝代の新しい漢語も含まれていると考えられる。

以上、(1)の検討から分かるように『西国立志編』には、漢籍の典拠のある漢語が多く使われ、左ルビをつけることによってその意味を分かりやすくするための工夫がなされていると考えられる。

なお、『大漢和』と『漢語大詞典』にその項目はなく、漢籍の典拠が認められない二字漢語を<表 1>に示す。

<表1> 漢籍の典拠が見られない左ルビ付二字漢語

見出し語	左ルビ	章	丁數		行
穢悪	ケガラハジクアシキ	4	4	オ	2
鞋工	クツシ	13	12	オ	4
位價	アタヒ	0	1	オ	3
位級	クラ井	19	19	ウ	2
影相	シヤシン	17	16	ウ	1
該得	ウベキ	10	9	ウ	11
画影	エカゲ	4	5	オ	1
過嚴	キビシスギル	1	1	ウ	6
各箇	ヒドリビトリ	2	2	ウ	9
虚影	ムナシキカゲ	3	3	オ	5
極嚴	ゴクキビシ	2	2	ウ	7
合集	ヒトツニマトマリ	3	3	ウ	10
工場	サイクバ	9	8	ウ	10
薬店	ワラヤ	24	23	ウ	12
刷行	ハンニスル	29	27	ウ	2
蚩愚	オロカ	3	3	ウ	3
實形	ホントウノカタチ	4	5	オ	2.
實驗	タメシ	1	1	オ	9
収場	シマイ	6	6	オ	12
小蟹	一カニ	13	12	オ	11
書班	カキヤク	12	11	オ	7

初歩	フミダシ	9	8	ウ	6
信證	ショウコ	20	20	オ	10
成跡	デキゴト	3	3	ウ	5
工場	セイゾウバ	11	10	ウ	5
石階	ーダン	14	14	オ	7
磚人	カハラジ	13	11	ウ	5
争賽	セリアフ	23	24	オ	8
搜出	サガシイダ	16	15	ウ	6
徴候	シルシ	4	5	オ	8
雕工	ホリモノシ	13	13	ウ	8
轉用	ウツシモチヒ	5	6	オ	5
頭位	カシラ	28	25	ウ	11
兎皮	ウサギノカハ	19	18	ウ	3
癱瘋	チウブウ	28	26	ウ	8
帮手	タスクルヒト	34	31	ウ	11
萌發	メヲダシ	4	4	オ	5
棉磨	モメンヲセイスルシカケ	20	20	ウ	1
目存	ミハナサヌ	21	21	ウ	3
藍匠	カゴツクリ	13	13	オ	12
零細	コマカナル	33	31	ウ	3
劣悪	ヲトリテアシキ	3	3	オ	8
勞働	ツカレ	18	17	ウ	9

これらのうち、『SELF-HELP』の原文と対照して見ると、原文の英文に一致する単語もなく、一種の意識と思われる表現から得られた“影相、過嚴、虚影、習験、小蟹、成跡、石階、零細”のような漢語もある。

次に、『西国立志編』の現れる左ルビ付三字漢語、四字漢語を<表2><表3>に示す。

〈表2〉 左ルビ付三字漢語

見出し語	左ルビ	章	丁數		行
按察司	ジヨツチ	16	15	ウ	4
衣糧袋	ナツプサツク	19	19	ウ	10
印書匠	ハンスリシ	13	13	ウ	9
建屋工	ダイク	17	16	ウ	11
極卑微	ゴクイヤシキ	10	9	ウ	11
言行録	イチダイキ	9	9	ウ	1
採石礦	イシヲキリダストコロ	24	24	オ	1
裁縫匠	シタテヤ	13	12	ウ	12
時辰標	トケイ	13	11	ウ	10
寫字房	チヨウメンヲイレオクトコロ	9	8	ウ	10
創造者	インヴェントル	27	25	ウ	3
打鐵匠	カヂヤ	13	13	ウ	2
雕像匠	ゾウホリノメイジン	13	11	ウ	8
釘書匠	ホントヂヤ	13	13	ウ	11
剃頭業	カミソリノシヨク	11	10	う	8
玻璃鏡	ビイドロカバミ	4	5	オ	1
補鞋工	クツナヲシ	24	23	ウ	12
補鍋匠	イカケヤ	13	13	オ	12
未曾有	イママデナイ	6	6	ウ	9
立法院	オキテヲタツルカイシヨ	2	2	オ	8
量地官	ソクリョウヤク	13	11	ウ	4

上の三字漢語、四字漢語の語構成を見ると、語を構成している形態素(語基)である二字漢語としての“按察、衣糧、印書、建屋、卑微、言行、時辰、寫字、創造、雕像、剃頭、玻璃、補鍋、立法、量地”は、漢籍の典拠が認められる語であり、“未曾有”は、三字漢語として『墨子・親士』の“緩賢忘事，而能以其國存者，未曾有也”の用例がある。しかし、“打鐵匠、釘書匠、補鞋工”の“打鐵、釘書、補鞋”は、漢籍の典拠は見られないが、ロブシャイド(1866～1869)の『英華字典』

に訳語が認められる。おそらく、中村正直は、『英華字典』の訳語を用いて翻訳に当てたと考えられる。

<表3> 左ルビ付四字漢語

見出し語	左ルビ	章	丁数		行
開化文明	ヒラケー	3	3	ウ	8
円光返照	カエリウツルヒカリ	3	3	オ	4
巻帙浩瀚	タイブナルモノ	22	22	オ	3
観感興起	ミテカンシンシテフンパツサセル	2	2	ウ	12
亨通利達	シュツセリウン	20	20	オ	6
結菓成就	デキアガリ	3	3	オ	11
建造工人	ダイクトウリョウ	13	11	ウ	10
自主自立	ヒトリダツ	4	5	オ	3
時辰標匠	トケイシ	17	16	オ	12
實事習験	一ナラヒタメス	9	8	ウ	2
商家舗店	アキビトノミセ	15	15	オ	8
鑲玻璃工	ビードロヲハルシヨクニン	14	14	オ	8
政堂憲署	カミノセイジ	2	2	オ	12
聖會保長	テラノヤクニン	18	17	ウ	3
製綿工場	モメンセイゾウバ	11	10	ウ	5
大産厚資	シンシヨウヨキ	26	24	ウ	11
弊風風俗	アシキナラヒ	4	4	オ	6
變動流移	ウツリカワリ	4	5	オ	2
紡糸機器	イトヲヨルシカケ	11	10	ウ	6
名門右族	イヘガラ	28	25	ウ	9
薬舗主人	クスリヤ	18	17	ウ	4
立身制行	ミノヲコナヒ	2	2	オ	10

四字漢語の大多数は、野村(1976)による分類の四字漢語の結合パターンⅠ型： $\{(O+O)+(O+O)\}$ に属しているが、“鑲玻璃工”のようなⅡ₂型： $\{O+(O+O)\}$

+○パターンのお話、“時辰標匠”は、II₁型：{(○+○)+○} +○に属する語である。I 型の二字漢語の漢籍の典拠を調べると、“開化/文明、円光/返照、巻帙/浩瀚、觀感/興起、亨通/利達、結菓/成就、建造/工人、自主/自立、聖會/保長、弊風/風俗、變動/流移、紡糸/機器、名門/右族、藥舖/主人、立身/制行”は、漢籍の典拠のある二字漢語で構成されている。しかし、“實事/習驗、商家/舗店、政堂/憲署、製綿/工場、大産/厚資”には、“實事、商家、憲署”に漢籍の典拠があるが、“習驗、舗店、政堂、製綿、工場、大産、厚資”漢籍にはその典拠が見られない語である。この中の“大産”は、明朝代の資料である『景岳全書』の用例が『大漢和』にあり、その意味も‘通常のお産をいう’意であり、『西国立志編』では‘多くの財産’の意味として使われている。これらの漢語は、中村正直による造語なのかどうか、検証することが求められる語である。

このように『西国立志編』における左ルビ付漢語を中国漢籍の典拠の有無を概略的に検討したが、これらの漢籍の典拠は認められない語を中心に、次章では、『西国立志編』が翻訳された当時の代表的な辞書であり、中村正直もおそらく利用したと思われるロブシャイドの『英華字典』及び掘達之助編(1862)『英和对訳袖珍辞書』との関連性を検証していく。

4. 英華字典と左ルビ付漢語の関連性

3-2で取り出した中国漢籍の典拠が見られない漢語を対象に、『西国立志編』と原文を対照し、これらの語がどんな英語の訳語として用いられたのか調べ、ロブシャイドの『英華字典』との関連性を分析することにする。さらに『西国立志編』が出版された明治四年以前の日本の英和辞書である掘達之助編の『英和对訳袖珍辞書』との関連も検証することにする。

まず、両ルビ付き漢語は、どんな英語の単語の訳語として訳されたかをSamuel Smilesの『SELF-HELP』の原本と対照して一部の用例をあげ、左ルビ付漢語に対する英単語がロブシャイドの『英華字典』の対訳辞典にはどのように訳されているか、いくつかの原文との用例を示し、〈表4〉に示す。

<鞋工(左 クツシ)>

Shoemakers have given us Sir Cloudesley Shovel the great Admiral,
鞋工(左 クツシ) ヨリシテ起レルモノハ有名ノ水師提督古勞垓士禮。(13-12-
オ-4)

Durande, The architect, of a Paris shoemaker;

建屋工(左ダイク)ノ去蘭徳(右チュランド)ハ、巴里ノ 鞋工(左 クツシ) ノ子
ナリ。(17-16-ウ-11)

<位價(左アタヒ)>

“The worth of a state, in the long run, is the worth of the
individuals composing it”

一國ノ貴キトマルハトコロノ位價(左アタヒ)ハ、ソノ人民ノ貴トマルハモノ、
合弁シタル 位價(左アタヒ)ナリ。(0-1-オ-3)

<位級(左クラキ)>

Similar Promotions from the ranks in the French army, have continued
down to our day.

ソノ後得タル他ノ位級(左クラキ)ニ比スレバ、尤も難カリシナリ(19-19-ウ-2)

<各箇(左ヒドリビトリ)>

Such reforms can only be effected by means of individual action,

特ニ人民各箇(左ヒドリビトリ)ニ身ヲ修メ家ヲ治メ、(2-2-ウ-9)

<極善(左ゴクヨキ)>

Some of the best are almost equivalent to gospels.

極善(左ゴクヨキ)ナル人言行ハ殆(右ホトン)ト福音書ニ均(右ヒト)シク(10-9-
ウ-5)

<建屋工(左ダイク)>

Durande, The architect, of a Paris shoemaker;

建屋工(左ダイク)ノ去蘭徳(右チュランド)ハ、巴里ノ 鞋工(左 クツシ)ノ子ナリ。(17-16-ウ-11)

<藁店(左ワラワ)>

as in that of Drew and Gifford, whose only school was a cobbler`s stall, 蓋シ徳留(右ドリクワ)及ビ及福徳(右ギクヲヲド)ハ

補鞋工(左クツナヲシ)ノ藁店(左ワラワ)ヲ以テ學校ト為シ(24-23-ウ-12)

<刷行(左ハンニスル)>

about the same time, He was passing through the press his admirable sketches of the “Men of Science and Literature of the Reign of George III”

且ツ此時マタソノ著ハセル「若爾日第三ノ時代文藝學術ノ人」トイエル書ヲ刷行(左ハンニスル)シ、(29-27-ウ-3)

<蚩愚(左オロカ)>

The noble people will be nobly ruled, and the ignorant and corrupt ignobly.

品格(左クライ)尊キ人民ハ、(略)蚩愚(左オロカ)ニシテ懷惡(左クロクナリタ)ナル人民ハ、自ラ愚(右オロカ)ナル政事ヲ以テ(3-3-ウ-3)

<鑲玻璃工(左ビードロヲハルシヨクニン)>

d’ Alembert, a foundling picked up one winter’s night on the steps of the church of ST. Jean le Round at paris, and brought up by the wife of glazier;

亜連白爾士(右アレムベルト)ハ冬夜ニ巴理(右パリス)ノセンジョンル Rondノ寺院ノ石階(左ダン)ニ棄ラレシ孫兒ナリシヲ鑲玻璃工(左ビードロヲハルシヨクニン)ノ婦拾(右ヒロヒ)取りテ養ナヒシナリ。(14-14-オ-8)

〈表4〉ロブシャイド編『英華字典』と左ルビ付二字漢語

		ロブシャイド『英華字典』(1869)	英和對譯袖珍辭書(1862)
穢惡	vice	弊、惡弊、惡習、惡僻、惡慝	不善、螺旋
鞋工	Shoemakers	做鞋者、 <u>鞋工</u> 、做鞋師傅、鞋匠	沓師
位價	worth	price, rate, 價、値、価値、 equal in value to, 價、低、 deserving of, 堪、堪當、應當、該得	價ノアル已ガ身ニ取テ
位級	ranks	a row, 行、degree, 等、等級、班次、班位、to rank with, 同等、同等級	度、列、並
該得	enable	俾能、俾得、使能 worth : deserving of, 堪、堪當、應當、 <u>該得</u>	用達サセル
画影	figure	形、象、貌、形狀、形容、形像、形貌	図、形、画像
各箇	individual	single, 單 獨、 an individual man, 一個人、	一体、一物、獨り
極善	best	至好、極好、最好、 <u>極善</u> 、最善、	最モ好キ、最モ好ク
合集	aggregate	the sum total, 總數、合數、共算	聚合
工場	manufactories workshop	manufactory、製、作 work-shop、工房、作工房	manufactory : 製造所 workshop : 仕事場、細工場
藁店	stall	for a horse or for cattle, 牛圈	辻店、奏樂所ノ椅子、店ニテ 賣物ヲ載セテ見セル臺廐
刷行	press	榨、a printing-press, 印書夾、印書機	In the press, 板ニ起シテ
蚩愚	ignorant	唔知、唔明、唔曉、不知、無知	無孝ノ
實形	practical	capable of practice, 做得、練得、可習	業ニ掛テノ
實驗	experience	經試者、經練者、試練	發明、功、試
収場	close	close, to shut, as the door, 掩埋、閉、to close an affair or play, 収場、完場、	決定終

		closing word, 収場	
舗店	factories	factory, 行、行口	事務、事、職業、事件
書班	clerk	a clergyman, 牧師 儒人、士、學者、a clerk in a government office, 書班, 書辦	法師、筆記者、孝士
初歩	beginnings	the commencement, 元始、元初、始初、起初	始メ
信證	credit	belief, 信、to believe, 信	信用、尊敬、入金ノ覺
政堂	Government	Government、政、管轄、the government of a state, 國政、皇家、	government : 支配、命令、政府
製綿	cotton	cotton, 棉花、fine silky cotton, 木棉、	cotton : 綿布
磚人	bricklayers	brick-layer, a mason, 坭水匠、坭水師傅、坭工、圻人	左官
争賽	encounter	to meet face to face, 遇、遭、逢、相遇、 to fight, 交戰	逢フ事、戦ヒ
搜出	discoverer	discover, to disclose, 洩出、露出、 to discover a secret, 查出私事、	發明スル人
厚資	fortune	fortune, chance, 偶然、命運、命、	fortune : 幸、財宝、嫁ニ這ル引出物
大産	ample	ample, 廣闊、廣大、寬廣、大多、	ample : 廣キ、寬大ナル
徴候	effects	effect, that which is produced by an agent or cause, result, 果、果實、効驗、cause an effect, 因果	效驗、功績、続キ事ノ次第、 終リ
雕工	carver	of wood, 雕工、雕花匠	肖像ヲ刻ム人、宰割スル人
轉用	applies	apply, to, toley on, 洽、傳、打、to apply the mind, 用心、專心、專務	—
頭位	leader	倡、倡領、倡頭、倡首、引頭、	案内者、軍勢ヲ引キツレ行ク

			人
兎皮	rabbit-skins	rabbit、兎、兎子、skin、皮	rabbit : 兎 skin : 皮、革
癱瘋	palsy	瘋癱	痿、卒中
不泯	solid	solid, dense, 實、堅実、堅固、	固キソツカリシタル、信ノ、善キ
帮手	helpers	helper, 帮手, 助者	助ケル人
棉磨	cotton-mill	棉磨	cotton : 綿布 mill : 車製造所、織り紡ク所、貨幣 ヲ鑄造スル所
目存	view	睇、看、視、觀看	視覚、景、吟味、見分スルコ ト、目的
藍匠	basket-maker	竹器師傳、織籬師傳、	篋作ル人
零細	details	detail, the, 分、條、in detail, 詳細、	委シキ咄シ、格別ナルコト、模様
勞憊	fatigue	瘡、倦、困倦、疲倦、困乏、辛苦	疲レ

〈表4〉に示すように、(1) ロブシャイドの『英華字典』と完全に一致する語では、“Shoemaker 鞋工、enable 該得、best 極善、close 収場、carver 雕工、rabbit-skin 兎皮、helper 帮手、cotton-mill 棉磨”が訳語として採用されている。また、(2) ロブシャイドの『英華字典』の訳語の文字の倒置によつたものと考えられる語もある。“palsy”は、ロブシャイドの『英華字典』の訳語である“瘋癱”の“癱瘋”が使われている。“aggregate 合集、factory 舗店”の場合は、漢籍の典拠が見られる“集合、店舗”の文字の倒置による訳語である。これらのいわゆる文字の倒置による造語法は、明治初期の文献によく使われている⁹⁾。

次に、三字漢語、四字漢語を構成している語についてもどんな英語の単語の訳

9) 明治初期の資料における文字の倒置による造語法については、松井利彦(1991)「「簡単」「明確」の周辺」(『国語国文』第50巻第5号)、鈴木丹士郎(1979)「二字漢語の字序について」(『国語表現論叢押見虎三教授退官記念論集』明治図書出版)、(1981)「「抵抗」と「抗抵」」(『国語語彙の研究 二』和泉書院)、(1986)「二字漢語の字順についての問題」(『国語論究1 語彙の研究』明治書院)、田島優(1996)「『新説八十日世界一週』における字順の相反する二字漢語」(『東海学園国語国文第50号』)など、数多くの研究の成果が見られる。

語として当てられているかを次の〈表5〉に示す。

〈表5〉ロブシャイド編『英華字典』と左ルビ付三字漢語・四字漢語

		ロブシャイド『英華字典』(1869)	英和對譯袖珍辭書(1862)
按察司	Judge	審司、判司、the chief or criminal judge of a place, 按察司	捌ク人知リテ居ル人
衣糧袋	knapsack	行囊、行袋	兵糧入レル袋 軍兵ノ持ツ
印書匠	printer	印書漚、a master printer, 印書師傳	板ヲ摺ル人
極卑微	humblest	humble、謙、謙卑、謙遜、to bring down 謙卑, to humble one's self, 自卑	謙遜ナル
建屋工	architect	a builder 工匠、起屋師傳、建造工人	建築術ノ孝者
採石礦	stone quarry quarry	to quarry stones, 打石、quarry、鑿石、石塘、quarryman, 鑿石佬、採石佬	石ノ控構
裁縫匠	tailors	taylor、裁縫、裁匠	裁縫匠
時辰標	Chronometer	any instrument that messures time, 時辰鏢、時辰鏢、時辰鏡	chronometer: 時ヲ測ル器
時辰標匠	watchmaker	a watch or time-piece 鏢,,時辰鏢, 時辰表 watchmaker、鏢匠、表匠	時計師
寫字房	counting-house	counting-house、counting-room, the comptoir, 寫字房	count, 諸侯, 勘定、愁訴 counter, 錢名.店ニテ賣物ヲ見セル臺。船材木ノ名
打鐵匠	blacksmith	black-smith、打鐵師傳、打鐵匠、鐵匠	馬ノ金脊造ル鍛治、鉄鍛治
雕像匠	sculptor	雕匠、雕刻匠	—
釘書匠	book-binder	one who binds books,	書物ヲ綴ル人

		釘書者、釘書師傅、釘装匠	
剃頭業	barber`s shop	barber 剃頭師傅, a barber`s shop, 剃頭舗	barber : 髪剃ルヒト shop : 店
玻璃鏡	phantasmagoria	Phantasm, 幻想、空想	壺ヲ出ス事、幻灯
補鞋工	cobbler`s	cobbler, 補鞋佬	cobble : 補衣ル、粗細エスル cobbler : 全上ノ人
補鍋匠	tinker	補鑊匠	イカケ師
立法院	Legislature	立法總部、設法總部	上院下院ト名ツケル兩評議 所ノ総名
量地官	engineers	civil engineer, 畫迹、量地官	砦ヲ築ク人、坑卒隊
鑲玻璃工	glazier	鑲玻璃師傅、 Glazing, furnishing with galss, 鑲玻璃	障子ニ硝子ヲハメル人

上の<表5>の三字漢語、四字漢語の中にも、(1) ロブシャイドの『英華字典』と完全に一致する語には、“Judge 按察司、counting-house 寫字房、blacksmith 打鐵匠、engineer 量地官”の訳語があり、(2) ロブシャイドの『英華字典』の訳語を修正し、その一部を取り入れたと考えられる語には、“printer 印書師傅、印書漑(印書匠)、chronometer-maker 時辰鏢、時辰鏢、時辰鏡(時辰標)、barber`s shop 剃頭舗(剃頭業)、quarry 採石佬(採石礦)、book-binder 釘書者、釘書師傅(釘書匠)、cobbler 補鞋佬(補鞋工)、Legislature 立法總部(立法院)、glazier 鑲玻璃師傅(鑲玻璃師工)”などがあり、“sculptor 雕匠、雕刻匠(雕像匠)やtinker補鑊匠(補鍋匠)”は、類義の文字の入れ替えによるものと考えられる。これは、職人、職場などを表す中国語の表現を日本語化したものと考えられる(ッコは日本語訳)。その他、“tailor 裁縫匠”は、掘達之助(1862)編『英和対訳袖珍辭書』と一致する語である。このように、漢籍の典拠の見られない左ルビ付漢語を対象にロブシャイドの『英華字典』との関連性を検討してきたが、60語のうち、26語については、その関連性があると考えられる。また、中村正直が英文を訳するにおいて断言はできないが、明治初期以前に日本で造語されたと思われるいわゆる日本製漢語を訳語として用いられた語もあると考

えられる。“穢悪、画影、過嚴、刷行、實驗、織匠、織工、政堂、徵候、轉用、萌發、零細、裁縫、雕像”などは、『西国立志編』以前の用例が見られる語である。その他の語については、訳者の創意による語である蓋然性が高いと思われるが、より明確な検証を要する語であるため、本稿では判断を保留する。

5. 『日本国語大辞典』と左ルビ付漢語

4章で検証の結果、左ルビ付漢語のうち、特に、漢籍の典拠が見られない語や訳語がどのように現代語に受け継がれ、定着したのかについて『日国2』より検討を行うことにする。

『日国2』は、上代から現代に至る日本語の歴史を確実な文献によって跡づけた本格的な国語大辞典として、「初版」の収録語数45万に、新項目約5万語を増補、収録語数は約60万語、用例総数100万例が収録された。「第二版」では特に、平安時代から明治期までの日本漢文・漢語資料、奈良時代から江戸時代までの歴史資料、中世から近世初頭にかけての口語を伝える資料、初版では手薄だった近世の諸ジャンルの文献、明治期から現代にいたる近現代の資料から用例を採集している¹⁰⁾。この書は、現代語の形成、成立を知る上で貴重な資料であるといえよう。まず、3、4章で明らかになった左ルビ付漢語のうち、漢籍の典拠が見られない語や訳語として使われて語を中心に『日国2』に用例があるがどうかについて見てみると、(1)『西国立志編』の初出例が見られる語、(2)『西国立志編』より以前の例がある語、(3)『西国立志編』より以後の例がある語 (4)項目として存在しない語に分類することができる。

(1) 『西国立志編』の初出例が見られる語

鞋工、位價、位級、該得、各箇、虚影、極善、蚩愚、實形、初歩、信證、成跡、争賽、大産、厚資、頭位、兔皮、癡瘋、棉磨、劣悪、習驗、製綿、打鐵匠、時辰標、立法院

これらの語のうち、“打鐵匠”は、“打鐵”のみに初出例があり、三字漢語としての項目はない。また、“時辰標、立法院”は、“時辰、立法”は、漢籍の典拠があり、三字漢語として出例が見られる語である。

10) JapanKnowledge 「『日本国語大辞典』について」によった。

(2) 『西国立志編』より以前の例がある語

穢悪〔匏庵十種(1869)〕、画影〔古今著聞集(1254)〕、過嚴〔夜航余話(1836)〕、刷行〔玉石志林(1861-64)〕、實驗〔颶風親話(航海夜話)(1857)〕、織匠〔和蘭字彙(1855-58)〕、織工〔和漢三才図会(1712)〕、寫字房〔天柱集(1348頃)〕、政堂〔鄰艸(1861)〕、徴候〔扶氏経験遺訓(1842)〕、轉用〔読詩要領(1802)〕、崩發〔日本風俗備考(1833)〕、零細〔訳文筌蹄初編(1714-15)〕、按察司〔(浄瑠璃(1713))〕、衣糧袋〔続日本紀(756)〕、印書匠〔東大寺奴婢帳(735)〕、極卑微〔東海一漚集(1375頃)〕、裁縫匠〔菅家文草(900頃)〕、〔雕像匠(西洋見聞録(1869-71))〕、量地官〔量地指南(1730)〕

これらの語の中の三字漢語の場合、“按察司”は、項目としてあり、“衣糧袋、印書匠、極卑微、裁縫匠、量地官”の場合、二字漢語の“衣糧、印書、卑微、裁縫、量地”は、漢籍の典拠がある語で、当然ながら用例が見られる語であるが、三字漢語としてはその項目が見られない。

(3) 『西国立志編』より以後の用例の語

建屋工〔建屋：米欧回覧実記(1877)〕、工場〔改正増補和英語林集成(1886)〕、採石礦〔採石：影の部分(1964)〕、玻璃鏡〔小学読本(1874)〕

“工場”の場合、佐藤(1992)において『日国2』の『改正増補和英語林集成(1886)』の初出例について『輿地誌略』(1826)、『経済小学』(1866)の用例をあげ、近世末期の訳語として用いられたとの指摘がある¹¹⁾。

“建屋工、採石礦”は、三字漢語としての項目はなく、“建屋、採石”の用例がある。

(4) 『日国2』の項目として存在しない語

影相、極嚴、合集、藁店、熟觀、小蟹、書班、石階、磚人、搜出、雕工、不泯、帮手、目存、藍匠、勞憊、釘書匠、補鞋工、鑲玻璃工

“釘書匠、補鞋工、鑲玻璃工”の場合、“釘書、補鞋、鑲玻璃”の項目もなく、(4)に属している語について今後のより詳細な検証を行う必要がある。

11) 佐藤亨(1992)『近代語の成立』桜楓社、pp295~296

6. まとめ

以上、本稿では 『西国立志編』の左ルビ付漢語を中心に、出自からの面では中国漢籍の典拠の有無や中国の洋学書の訳語の調査の上、中国漢籍の典拠が認められない左ルビ付漢語の選別につとめた。これは、日本で造語されたいわゆる日本製漢語なのかどうか、を概略的に知るためであった。また、そこで抽出された漢語を対象に、明治初期によく用いられたといわれているロブシャイドの『英華字典』との関連性及び現代語の形成、成立の検証を行った。

検証の結果、左ルビ付漢語、凡そ357語の漢語に左ルビ付漢語で、そのうち、“鞋工、位價、位級、該得、各箇、虚影、藁店、熟觀、書班、磚人、搜出、雕工、不泯”など、44語の漢語は、中国漢籍の典拠が見られず、日本製漢語の蓋然性が高い漢語と推測される。また、ロブシャイドの『英華字典』との対照によって訳語であるかどうかについては、“Shoemaker 鞋工、enable 該得、best 極善、close 収場、carver 雕工、rabbit-skin 兔皮、helper 帮手、cotton-mill 棉磨、palsy 癱瘋”など、『英華字典』と一致する訳語や“printer 印書匠、book-binder 釘書匠、glazier 鑲玻璃師工、sculptor 雕像匠”などは、『英華字典』の訳語を修正し、その一部を取り入れたと考えられる語もあり、『英華字典』との関連を立証できたと考えられる。なお、『西国立志編』を訳するにおいて近世末期の訳語である“穢悪、過嚴、刷行、實驗、織匠、萌發”なども訳語として用いたと考えられる。なお、現代語としての成立過程を探ってみたが、“影相、合集、藁店、熟觀、書班、磚人、搜出、不泯、帮手、藍匠”など、『日国2』の項目はなく、現代語としてみられない語であった。このように、今回の考察において明確に検証された所もあるが、出自の面や当時の対訳辞典との関係、現代語への成立過程など、さらなる考察が必要な所も数多く残されている。これについては、今後の課題とし、考察を続けたい。

【参考文献】

＜論文・単行本類＞

- 安倍百合子 (1970) 「「天路歷程」における訳語研究」(『日本文学』)p. 47~61
 栗島紀子 (1966) 「訳語の研究 —西周を中心に」(『日本文学』27号)p. 69~87
 国立国語研究所 (1970) 「明治時代語の研究—明治初期における漢語の研究」『国立国語研究所年報』p. 54~63

- 国立国語研究所 (1971) 「明治時代語の研究 -明治初期における漢語の研究」 『国立国語研究所』 p. 44~49
- 酒井純子 (1991) 「福沢諭吉の四字漢語について」 『信州大学国語教育学会』 p. 42~57
- 佐藤喜代治著 (1971) 『国語語彙の歴史的研究』 明治書院
- 佐藤亨 (1983) 『近世語彙の研究』 桜楓社
- _____ (1986) 『幕末・明治初期語彙の研究』 桜楓社、 p 324
- _____ (1992) 『近代語の成立』 桜楓社 pp295~296
- 沈国威 (1994) 『近代日中語彙交流史』 笠間書院
- 進藤咲子 (1991) 「近代語彙の一考察 -『学門ノスヽメ』の語彙の性格」 『東京女子大学比較文化研究所紀要』 52号 p. 387~398
- 鈴木英夫 (1980) 「新漢語の造出と享受 -明治前期の新聞を資料として」 『国語と国文学』 東京大学国語国文学会 p. 52~65
- 高野繁男 (1979) 「明治初期の翻訳漢語 -「論理学」 (『百科全書』所収) による」 『人文学研究所報』 11号 p. 55~64
- 高野繁男 (1980) 「大槻文彦・訳「言語編」の訳語-明治初期の翻訳漢語」 『人文学研究所報』 14号 p. 83~107
- 高野繁男 (1978) 「明治初期の翻訳漢語-「修辞及華文」による」 『語学研究』 p. 107~144
- 野村雅昭 (1976) 「現代漢語の語構成について」 (『情報管理18、No11』)、 p 888
- 惣郷正明・飛田良文著 (1986) 『明治のことば』 (東京堂出版)
- 松井利彦 (1984) 「明治初期の法令用語と造語法」 『広島女子大学文学部紀要』 p. 27~47
- 松井利彦 (1983) 「近代日本漢語と漢訳書の漢語」 (『広島女子大学文学部紀要』 18号) p. 35~51
- 森岡健二編著 (1969) 『近代語の成立-明治期語彙編』 明治書院

<辞書類>

- ロブシャイド (1866~69) 編 『英華字典』
- 佐藤喜代治編 (1977) 『国語学研究事典』 明治書院、 P846
- 漢語大詞典編輯委員会 (1990) 『漢語大詞典』 漢語大詞典出版社
- 掘達之助編 (1862) 『英和対訳袖珍辞書』
- 日本大辞典刊行会編 (2001) 『日本国語大辞典第二版』 小学館
- 諸橋徹次著 (1984) 『大漢和辞典』
- <http://www.jkn21.com/top/> 「Japan Knowledge」 「『日本国語大辞典』」

〈付録〉左ルビ付二字漢語一覽

	見出し語	左ルビ	章	丁數		行		見出し語	左ルビ	章	丁數		行
1	壓抑	オシツケル	1	1	ウ	7	55	基礎	ドダイ	33	31	ウ	5
2	安佚	ラクヲスル	25	24	オ	12	56	儀範	ギョウジョウ	34	32	オ	1
3	安寧	アンラク	6	7	オ	1	58	休歇	ヤスム	32	30	ウ	5
4	委曲	コトコマカ	12	11	オ	6	59	仇敵	カタキ	5	6	オ	4
5	幾世	イク	7	7	オ	6	60	協議	イツチシテキスル	6	6	オ	8
6	幾代	イク	7	7	オ	6	61	行事	シワザ	9	9	オ	12
7	一己	ヒトツヒトツ	3	3	オ	3	62	強弱	ツヨキヨワキ	3	3	ウ	5
8	一箇	ヒトツ	3	3	ウ	7	63	協同	ドウイ	23	22	ウ	9
9	依頼	タヨル	6	6	ウ	7	64	教派	リウギ	5	5	ウ	8
		ヨリタノミ	10	9	ウ	10			リウギ	5	5	ウ	9
10	一種	一シナ	13	12	オ	12	65	享用	ウケモチウ	2	2	ウ	5
11	運會	ヨキバアヒ	20	20	ウ	1	66	圍人	ムマノクチトリ	13	13	ウ	5
12	銳意	イツシヨウケンメイ	6	6	ウ	12	67	許多	アマタ	32	29	ウ	8
13	永續	エイゾク	4	5	オ	1	68	金版	カネノノバシイタ	17	16	ウ	1
14	贏得	カチウル	9	9	オ	8	69	勤勞	ホネヨリ	7	7	ウ	3
15	役使	ツカハレル	4	4	ウ	5	70	崛起	ソビエ	8	7	ウ	8
16	贏利	マウケ	22	22	オ	6			ソビエオコリ	17	16	オ	9
17	閱歴	コトヲヘル	9	9	オ	12	71	群下	ジモノモノ	1	1	ウ	7
18	往々	イクラモ	25	24	オ	12	72	經驗	タメシココロミ	1	1	オ	8
19	悞悞	クヤミ	32	30	ウ	8	73	藝事	ゲイジュツ	3	3	ウ	9
20	圻者	サクハン	13	11	ウ	5	74	景象	ケシキ	7	7	オ	6
21	圻人	サクハン	13	11	ウ	9	75	藝文	ゲイゴト	9	9	オ	12
22	懷惡	ワロクナリタ	3	3	ウ	3	76	檢尋	サガス	7	7	オ	9
		アシキ	4	4	オ	3	77		ナガクツツキ	6	6	ウ	11
23	開化	ヒラケ	2	2	オ	5			キナガ	7	7	オ	8
24	改化	ヨクナホル	2	2	ウ	11	78	諺語	コトワザ	12	11	オ	4
25	街衢	マチチマタ	9	8	ウ	9	79	堅實	テガタキ	23	23	オ	7
26	會集	アツマリ	3	3	オ	3	80	儉節	ケンヤク	2	2	ウ	8
27	價銀	アタヒ	24	23	オ	11	81	顯然	ハツキリ	2	2	オ	11
28	各自	メイメイ	3	3	オ	3	82	堅定	シツカリトスワル	28	26	ウ	1
29	學習	ケイゴ	9	9	オ	12	83	甄陶	カタチツクラレ	34	32	オ	4
30	確然	シカト	1	1	オ	8			コシラヘ	34	31	ウ	12
31	果實	デキバエ	2	2	ウ	5	84	堅忍	シンボウスル	6	6	ウ	11
32	過甚	ヒトトホリナラズ	28	26	オ	11			シンボウ	10	9	ウ	9
33	間斷	タエマ	32	31	オ	4	85	賢能	サエハタラキ	23	23	オ	5
34	合并	アハセマトマル	3	3	ウ	8	86	權力	イキホヒ	2	3	オ	1
		ヒトツニマトマル	0	1	オ	4	87	光陰	ヒマ	17	17	オ	4
35	化導	ミチビキ	4	4	オ	8	88	航海	フナノリ	13	11	ウ	4
36	關係	カカワル	3	3	ウ	6	89	光輝	ヒカリ	6	6	ウ	8
37	艱難	ムツカシキコト	11	10	オ	10	90	光景	アリサマ	13	12	ウ	9
38	艱難	ヤット	26	25	オ	4	91	高潔	タカクイサギヨキ	10	9	ウ	6
39	元來	モトヨリ	3	3	オ	10	92	功效	コウノウ	4	5	オ	3
		モトモト	8	7	ウ	9	93	工事	ジゴト	6	6	ウ	6
40	官吏	ヤクニン	4	4	ウ	11	94	骯髒	ケダカク	19	19	オ	3
41	管理	シハイ	3	3	ウ	4	95	亨通	一トホル	11	10	オ	11
42	勸勵	ススメハゲマシ	4	4	オ	8	96	幸福	サヒハヒ	2	2	オ	3
		ススメハゲマス	10	9	ウ	4	97	功用	ヤクヲスル	2	2	ウ	6
44	議革	ギロンシテアラタメル	2	2	オ	9	98	功力	テガラ	23	23	オ	5
45	儀觀	ナリフリ	31	29	ウ	1	99	剛烈	ツヨクハダシキ	10	9	ウ	7
46	戲曲	シバイノウタ	12	11	オ	11	100	互寒	コドエ	32	30	ウ	12
		シバキボン	30	28	オ	3	101	國法	一オキテ	2	2	オ	8
47	奇勲	テガラ	11	10	ウ	2	102	箇々	ヒトリビトリ	4	5	オ	7
48	戲臺	シバキ	17	16	ウ	2			ヒトリビトリ	8	8	オ	4
49	舉動	ブルマイ	9	9	オ	1	103	行歩	アルク	26	25	オ	4
50	貴顯	レキレキシ	8	7	ウ	9	104	痕跡	アト	31	29	ウ	4
51	期限	ニチゲン	13	13	オ	9	105	建立	タデル	10	9	ウ	12
52	己私	ワガミノヨク	2	2	ウ	10	106	作業	シワザ	10	9	ウ	9
53	譏刺	ソシリ	13	13	オ	6			ジゴト	24	23	ウ	7
54	毅然	ツヨク	32	30	オ	12	107	查究	センサク	13	12	オ	12

108	作勞	シゴトヲスル	9	9	オ	11	159	書辦	カキヤク	12	11	オ	2
109	作用	ハタラク	32	30	ウ	10	160	將領	ダイショウ	19	19	ウ	3
110	産業	シヨタイ	2	2	ウ	3	161	秤量	ハカリ	18	17	ウ	16
		シンショウ	7	7	ウ	3	162	職業	カギョウ	3	3	ウ	9
		シンショウ	24	23	ウ	5	163	職業	カギョウ	4	4	ウ	10
		シンショウ	24	23	ウ	6	164	織匠	オルシヨクニン	21	20	ウ	12
111	事業	シゴト	23	23	オ	4	165	織工	オリモノシ	13	12	オ	1
112	肢体	カラダ	7	7	オ	7	166	織機	オルハタ	9	8	ウ	9
113	自己	ジブンカラ	4	4	オ	5	167	所有	アラユル	12	11	オ	2
		ジブン	6	6	ウ	7	168	自立	ヒトリダツ	1	1	ウ	6
		ジブン	10	9	ウ	10			イツキダツコト	4	5	オ	9
114	嗜好	スキ	23	22	ウ	2			イツキダテ	5	5	ウ	5
115	志向	リヨウケン	28	26	ウ	1			イツキダツ	4	5	オ	7
116	史冊	シヨモツ	8	8	オ	2	169	思慮	フンベツ	24	23	ウ	8
117	私室	ワガイヘ	18	17	ウ	12	170	所行	オコナヒ	2	2	オ	4
118	自主	ヒトリダチ	2	2	ウ	2	171	仁慈	メグミ	4	4	オ	7
		イツキタチ	4	4	ウ	9	172	審察	コマカニギンミ	9	9	オ	8
		ドクリツ	4	5	オ	4	173	心思	ココロ	7	7	オ	7
119	刺繍	スイハクスル	19	18	オ	12			カンガヘ	13	13	オ	3
120	資性	ムマレツキ	28	26	オ	4	174	尋常	アタリマヘ	9	9	オ	5
121	執政	ヂウヤク	4	4	ウ	8			ヨノツク	29	27	オ	9
122	實體	ホンタイ	3	3	オ	4	175	信仗	タヨリ	25	24	ウ	2
123	志念	リヨウケン	10	9	ウ	6	176	貞成	ホントウ	4	4	ウ	5
124	師傅	カシヅキ	1	1	ウ	6			ホントウ	6	6	オ	9
125	師法	テホン	8	8	オ	12	177	神像	シンタイ	5	5	ウ	11
126	事務	ヨウムキ	9	8	ウ	11	178	深沈	オチツキタ	12	11	オ	11
127	爵位	クラ井	11	10	オ	3	179	人品	ヒトガラ	9	9	ウ	1
128	差別	ケジメ	11	10	オ	6	180	心靈	ココロタマシイ	9	9	オ	10
129	自由	カツテマハ	4	4	ウ	10	181	進路	ススムミチ	11	10	オ	8
130	集合	マトマル	4	4	オ	2	189	衰退	トロヘテアトヘサガ	4	4	オ	1
131	修養	オサメヤシナフ	9	9	オ	10	190	水平	マツタヒラ	3	3	ウ	2
132	主顧	トクイ	13	13	オ	9	191	性行	ギョウジョウ	3	3	オ	11
133	従前	イママデ	28	26	ウ	6			ミモチ	4	4	オ	3
134	種々	イロイロ	4	5	オ	2			ミモチ	4	5	オ	5
135	首先	ハジメ	31	28	ウ	10	192	精神	タマシヒ	1	1	オ	11
136	種族	イヘガラ	11	10	オ	4	193	精美	ケツコウ	34	31	ウ	12
137	主張	フンバリ	4	4	オ	9	194	生平	フダン	20	20	オ	7
138	熟觀	トツクリミルコト	9	9	オ	8	195	政法	セイジ	1	1	ウ	7
139	承允	ウケアフ	18	17	ウ	6	196	生命	イノチ	2	2	ウ	2
140	昌運	メデタキジセツ	6	6	ウ	8	197	勢力	イキホヒ	1	1	ウ	8
141	障礙	コショウ	11	10	ウ	2			イキホヒ	5	5	ウ	12
142	僞選	ツグノヒカヘス	24	23	オ	11	198	精力	コンキ	9	8	ウ	1
143	昇降	ノボリクダリ	3	3	ウ	1			コンキ	28	26	オ	1
144	情事	アリサマ	24	23	オ	10	199	接見	アフ	28	26	オ	11
145	消受	モチヒウケ	29	27	オ	10	200	絶好	ゴクヨキ	34	32	オ	8
146	障礙	サマタゲ	11	10	オ	11	201	切當	タシカ	12	11	オ	5
147	將就	チカツキ	28	26	オ	12	202	選舉	エラミアク	20	20	オ	9
148	上進	スヽミユキ	8	8	オ	7	203	船楫	一ホバシラ	13	13	ウ	6
149	上進	ダンダンヨクナル	8	7	ウ	12	204	戦闘	タヽカヒ	8	8	オ	5
150	將帥	タイショウ	19	18	ウ	6	205	總合	マトマル	4	3	ウ	12
151	昌盛	サカヘル	4	3	ウ	12	206	遭際	シアハセ	16	16	オ	1
152	情勢	アリサマ	20	20	ウ	4			ナリユキ	22	21	ウ	6
153	床榻	コシカケ	29	27	オ	10			デアフバアヒ	34	32	オ	2
154	小僮	コソウ	20	20	ウ	2	207	操作	ハタラク	13	11	ウ	6
		コソウ	21	20	ウ	12			シゴトヲスル	27	25	ウ	4
155	小厮	コモノ	13	13	ウ	7	208	聰敏	ワカリノヨキ	18	17	ウ	1
156	倡導	ミチビキ	10	9	ウ	4	209	耐久	ヒルマヌ	10	9	ウ	9
157	徒得	カチウル	11	10	ウ	11	210	體質	カタチ	13	11	ウ	11
158	招認	ウケトム	33	31	ウ	7	211	對手	アヒテ	19	19	ウ	4

212	體面	メンボク	10	9	ウ	10	248	敗績	シソコナヒタル	31	29	ウ	4
213	卓越	スグレタル	14	14	オ	10	249	囊昔	ムカシ	31	29	ウ	3
		スグレタル	17	16	ウ	8	250	靡棄	スタリ	5	6	オ	3
		スグレタル	27	25	オ	10	251	拜跪	ヲガム	5	5	ウ	11
212	體面	メンボク	10	9	ウ	10	252	覇政	イバルセイジ	4	5	オ	7
213	卓越	スグレタル	14	14	オ	10			イバルセイジ	4	5	オ	9
		スグレタル	17	16	ウ	8			シュッセ	20	20	お	8
		スグレタル	27	25	オ	10	253	煤炭	セキタン	13	13	ウ	3
214	卓然	ソビヘテ	29	27	オ	1			セキタン	21	21	オ	7
215	卓犖	スグレタル	13	11	ウ	9	254	白布	サラサ	23	22	ウ	4
216	地位	バアヒ	6	7	オ	2	255	發運	リウン	23	22	ウ	3
		バショ	11	10	オ	3	256	發達	シュッセ	12	10	ウ	11
		バアヒ	24	23	オ	12			シュッセ	20	20	お	8
217	秩序	シュンダテ	7	7	ウ	2	257	法度	オキテ	0	1	オ	5
218	治道	オサメカタ	6	6	オ	9			オキテ	2	1	ウ	9
219	着眼	メヲツケル	8	7	ウ	11			オキテ	2	1	ウ	10
220	著落	シカト	4	5	オ	2			オキテ	2	2	オ	3
221	忠愛	シンセツ	4	4	オ	7			オキテ	4	4	オ	7
222	長育	ソダツ	4	4	オ	5	258	裨益	タスケエキ	10	9	ウ	4
223	超絶	コエスグル	28	26	ウ	2	259	微賤	イヤシキ	8	7	ウ	12
		ソウワホルメイジン	13	11	ウ	12	260	稗補	タスケ	33	31	ウ	4
228	通常	フダン	30	28	オ	10	261	誹笑	ソシリ	31	29	オ	1
229	通俗	ナラハシ	2	2	オ	7	262	必須	ナクテナラス	25	24	オ	5
230	抵抗	ハリアフ	32	31	オ	3	263	百事	ナニモカモ	5	5	ウ	8
231	定斷	サダメ	12	11	オ	8	264	比喩	タトヘ	32	31	オ	1
232	傳記	カキモノ	8	8	オ	6	265	品格	クライ	3	3	ウ	2
233	顛狂	キチガヒ	31	29	オ	1			クライ	3	3	ウ	3
234	典故	コジ	31	29	ウ	2	266	品行	ギヤクジョウ	3	3	オ	5
235	傳染	ウツリ	8	8	オ	12			ギヤクジョウ	3	3	ウ	6
236	店舗	ミセ	9	8	ウ	9			ギヤクジョウ	3	3	ウ	9
237	田畝	デンヂ	24	23	ウ	5			ギヤクジョウ	12	11	ウ	1
238	當然	アタリマヘ	9	9	オ	3	267	扶掖	セワ	33	31	オ	8
239	統治	シハイ	3	3	ウ	3	268	福運	メデタキジセツ	6	7	オ	3
240	頭緒	コグチ	7	7	ウ	2	269	福祉	サイハヒ	6	7	お	1
241	同等	オナジホド	3	3	オ	7	270	福利	リウン	5	5	ウ	7
		ヨナジホド	3	3	ウ	1	271	不祥	フキツ	4	4	ウ	11
241	登庸	アゲモチフル	19	18	オ	9	272	分外	アタリマヘニホカ	0	1	オ	5
242	屠家	ニクミセ	13	13	オ	11			アタリマヘニホカ	0	1	オ	6
243	屠者	ニクヤ	12	10	ウ	12			カクバツ	2	2	オ	6
244	徒弟	デシ	13	12	ウ	5	273	奮起	フルヒヲコシ	8	7	ウ	7
		デシ	13	13	ウ	11	274	紛繁	セワシイ	9	8	ウ	11
		デシ	16	16	オ	1	275	分別	ワケ	12	11	オ	8
245	努力	ツトメテ	18	17	ウ	3	276	平安	フジ	2	2	オ	3
246	奴隸	ゲラウ	4	4	ウ	3	277	弊害	ワルイコト	5	6	オ	2
		ゲラウ	4	4	ウ	6	278	勉強	ホネヲラル	4	3	ウ	12
		ゲラウ	4	4	ウ	7			ホネヲリ	7	7	オ	5
		ゲラウ	4	4	ウ	9	279	返照	カハリウツル	3	3	オ	2
		トリワケ	23	22	ウ	5	280	放逸	ハウラツ	19	18	ウ	1
		トリワケ	28	26	ウ	2	281	貿易	コウエキ	22	22	オ	5
247	就中	トリワケ	10	9	ウ	3	282	保護	シュゴ	2	2	ウ	2
		トリワケ	23	22	ウ	5			シュゴ	2	2	ウ	3
		トリワケ	28	26	ウ	2	283	保全	アンノン	4	5	オ	5

284	歩卒	アシガル	8	8	オ	3	298	優人	ヤクシャ	12	11	オ	9
285	牧師	オシヘノヤク	12	11	オ	7	299	優劣	マサリオトリ	3	3	ウ	1
286	朴實	カザリナク	21	21	オ	7			マサ(リ)オトリ	3	3	ウ	5
284	歩卒	アシガル	8	8	オ	3	300	餘暇	ヒマ	13	12	オ	11
285	牧師	オシヘノヤク	12	11	オ	7	301	懶惰	ナマケ	4	4	オ	1
286	朴實	カザリナク	21	21	オ	7	302	利害	ヨシアシ	4	4	オ	11
287	牧人	ウシカヒ	12	10	ウ	12	303	理會	ガテン	25	24	ウ	3
		ウシカヒ	17	16	ウ	4	304	理會	ガツテン	5	6	オ	2
288	補助	タスケ	11	10	ウ	1	305	陸續	ヒキツマキ	30	28	ウ	6
		タスケ	10	9	ウ	4	306	律法	オキテ	2	2	ウ	4
289	邁往	ノリキニナリテ	10	9	ウ	7			オキテ	2	2	ウ	6
290	名聲	ヒョウバン	10	9	ウ	12			オキテ	2	2	ウ	12
		ヒョウバン	14	14	ウ	5			オキテ	4	4	オ	4
291	迷謬	アヤマリ	5	5	ウ	5	307	律例	ヲキテ	5	5	ウ	4
292	麵食	パン	17	16	オ	11	308	良工	ジョウヅ	13	13	オ	8
293	麵包	パン	14	14	オ	5	309	履歴	イチダイ	28	26	オ	4
294	木匠	ダイク	13	11	ウ	9	310	良善	ヨロシ	8	8	オ	11
		ダイク	17	16	ウ	3	311	吝惜	ラシム	28	26	オ	3
295	憑頼	タノミヨル	33	31	オ	7	312	陋屋	イヤシキイヘ	11	10	オ	5
296	木版	キノハン	13	13	ウ	3							
297	模範	カタ	8	8	オ	12							
		テホン	10	9	ウ	8							

要 旨

本稿は、明治初期の翻訳書である『西国立志編』に使われる漢語のうち、左ルビ付き漢語を対象に、中国漢籍の典拠の有無の検討、そこから取り出した漢籍の典拠が見られないと思われる漢語を対象に、訳語としてロブシャイドの当時の日本の英和辞典との関連性を明確な調査を行い、“Shoemaker 鞋工、enable 該得、best 極善、close 収場、carver 雕工、rabbit-skin 兔皮、helper 幫手、cotton-mill 棉磨”などの語には、『英華辞典』との関連性が検証された。

なお、『西国立志編』を訳するにおいて近世末期の訳語である“穢悪、過嚴、刷行、實驗、織匠、萌發”なども訳語として使われたことが明らかになった。

さらに、『日国2』の用例を分析することによって現代語の形成・成立の検討を行った。また“鞋工、位價、位級、該得、各箇、虚影、極善、蚩愚、實形、初歩、信證、成跡、争賽、大産、厚資、頭位、兔皮、癱瘋、棉磨、劣悪、習驗、製綿、時辰標、立法院”などの語については『西国立志編』の初出例があり、明治初期に現代語として成立した語である可能性が高い。その他、“影相、藁店、熟觀、小蟹、書班、磚人、搜出、不泯”などの語は、『日国2』に項目はなく、現代語としての定着までには至らなかったようである。

キーワード：左ルビ付漢語 英華字典 英和辞典 形態素 語基 初出例

투 고 : 2013. 5. 31
1차심사 : 2013. 6. 15
2차심사 : 2013. 7. 6